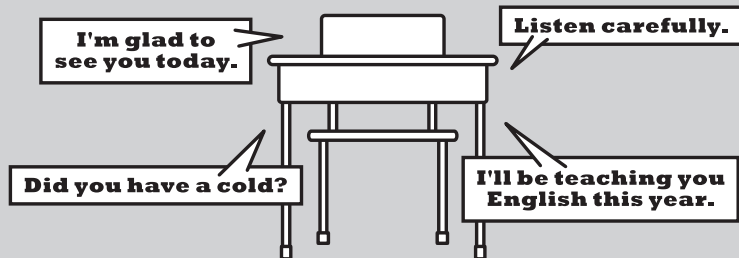


Classroom English Handbook



教室英語

ハンドブック

高梨庸雄 小野尚美 土屋佳雅里 田縁真弓

編

研究社

は し が き

英語は、学校教育において最も活発に改革が試みられてきた教科の1つであろう。2015年は「戦後70年」の年として知られるが、英語教育の70年はつねに「改革」の掛け声とともにあった。しかしその成果はどうだろうか。英語教育の成果を測る1つの尺度として、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の英語能力6段階のスケール（A1, A2: B1, B2: C1, C2）を参照すると、日本人英語学習者の多くはA（基礎段階）にとどまっているという。なぜだろうか。

その理由は単純ではないが、1つには、改革・改善というアドバルーンは上げて、それを草の根レベルから着実に実行すること、つまり、実際に生徒を教え導くべき教師たちへの支援、研修の不足が挙げられるのではないだろうか。たとえば教育職員免許法施行規則によると、英語教員になるために教員養成課程で修得すべき科目とその単位数は、教科に関する科目20単位、教職に関する科目8単位で、その内訳は「英語学」、「英米文学」、「英語コミュニケーション」、「異文化理解」という各科目に関して1単位以上計20単位である（一種免許状。専修免許状の場合は一種免許状の必要単位数に加えて教科又は教職に関する科目でさらに24単位）。これはかなり大雑把な内容であり、極端な場合は教科4科目については、特定の1科目で16単位、残りの4単位を他の科目で履修することも理論上は可能である。

その結果、教壇に立った際に本当に必要な能力や技術が不足したまま教員志望者が教師になってしまう状況が生まれる。指導に必要な能力や技術は、新採用教員研修で一定のレベルまで向上して足並みがそろそろほど生易しいものではないのだ。一方、教員はますます多忙になり、日々の授業の準備の時間を確保するのも容易ではない。このような中で新しい教育政策が施行されれば、一番苦勞するのは現場の教師である。これは避けなければならない。本書は、このような視点から、現場の先生方のお仕事を少しでもスムーズに履行できるようにと願って編集されたものである。

本書の母体は『教室英語活用事典』（研究社）である。おかげさま

で、多くの読者に歓迎され、1992年7月に初版を刊行してから2004年7月の改訂版発行を経て、23年間お使いいただいている。執筆に関係された方々に改めて感謝申し上げたい。近年、小学校における「外国語活動」が必修になり、開始学年も早まることが想定され、小中の連携がさらに重要になる。そこで『教室英語ハンドブック』の名称で、より使いやすくわかりやすいものを刊行することになった。今回特に留意したのは次の5点である。

1. 多忙な教員の現状に配慮し、各ページの左側に日本語、右側に英語を配置し、必要な表現がすぐわかるようにした。
2. 「外国語活動」の必修化並びに予想される開始学年の早期化に対応するため、小学校英語関連のページを大幅に増やした。
3. 児童・生徒の情意教育の重要性に鑑み、Storytellingに関するページを設けた。
4. 小中連携のためのページを新設し、オーラル・コミュニケーションの表現や小中連携を意識した授業モデルを掲載した。
5. 例文の英語の音声を native speakers に録音してもらい、研究社のホームページから利用できるようにした。

本書は『教室英語活用事典』の豊富な例文を資料として活用させていただいた。『教室英語活用事典（改訂版）』の編者である高梨庸雄、高橋正夫、カール・アダムズ、久埜百合の各氏にお礼申し上げる。この事典は今後も継続して販売される。

研究社の津田正、大谷千明、杉本義則の三氏には編集のいろいろな段階でお世話になった。その貴重なご助言のおかげで、見やすく使いやすいハンドブックになった。心から感謝申し上げる次第である。

2015年11月

編者



Classroom English
Handbook

目次

Contents

はしがき	iii
本書の使い方	xii
音声のダウンロード方法	xiv



小学校英語

Classroom English in Elementary School

1

Chapter 1	2
基本的な指示をするとき	

Chapter 2	7
動きの指示をするとき	

ア. 動きの指示をする	7
イ. ポーズを指示する	9
ウ. 位置を指示する	11
エ. 順番を決める	11

Chapter 3	13
活動をするとき	

ア. ペア、グループを作る	13
イ. カードを使って活動する	14
ウ. カルタ・すごろくをする	15
エ. ゲームをする	16

Chapter 4	18
作業・制作活動をするとき	

ア. 紙を用いる活動をする	18
イ. 道具を使う	18
ウ. 絵・図を描く	19

Chapter 5	21
演じる活動をするとき	

Chapter 6	22
クイズ・歌の活動をするとき	

ア. クイズの活動をする	22
イ. 歌う活動をする	22

Chapter 7	24
DVD・ビデオや絵本・紙芝居などを観るとき	

Chapter 8	25
ストーリー・テリング	

① 絵本の読み聞かせ法	25
a 絵本を開く前に	25
b 読み聞かせ	26
c 読後活動	28

② ストーリー・テリング	29
a お話	29
b お話タイム	29
c お話の仕方	30
d お話のための質問	30
e 確認用質問	30
f 話題	31
g 読みに誘う	32



一般的指示

33

General Directions

Chapter 1 34

移動

- a 席の移動 34
- b 教室内(から)の移動 35

Chapter 2 36

注目

- a 板書に 36
- b 生徒に 36
- c 教師に 37
- d 参観者に 37
- e 図・絵に 38
- f 窓の外に 39

Chapter 3 40

起立・着席

- a 起立 40
 - ア. 個人で 40
 - イ. 列・班ごとに 40
 - ウ. ペアで 41
 - エ. 全員で 41
- b 着席 42
 - ア. 個人で 42
 - イ. 複数人で 42

Chapter 4 43

注意・叱責

- a 静かに 43
 - ア. クラス全体に 43
 - イ. 個々の生徒に 43
- b 顔を上げて 44
- c 私語の禁止 44
 - ア. 最初の注意 44
 - イ. (注意してもやめないで)しかる 44

- d いたずらの禁止 45
 - ア. 短い注意 45
 - イ. 長めの注意 45
- e その他の注意 45

Chapter 5 46

発言

- a 大きな声で(言う・話す) 46
- b もっとはっきりと 46
- c 口を大きく開けて 47
- d 意味を考えて 47
- e 発言を促す 48
 - ア. 答えを促す 48
 - イ. 質問を受ける 48
- f 挙手 49

Chapter 6 50

ほめる

- a 一般的なほめ言葉 50
- b 声の質 50
- c 声の大きさ 51
- d 努力 51
 - ア. 成果に対して 51
 - イ. ねぎらう 52
- e 手書きの文字 52
- f 向上の度合い 52
- g 試験の結果 53

Chapter 7 54

励まし

- a 希望をもたせる 54
- b 意欲をかき立てる 54
- c 積極性を引き出す 55
- d 好調を持続させる 55
- e 慰め・同情 56
- f 生徒の応答を励ます 56

Chapter 8 57

あやまる

- a 遅刻して 57
 - ア. 教師が遅れて教室に入る 57
 - イ. 理由の説明 57
- b 生徒の釈明に対して 58
- c 予告なしの自習のあとで 58
- d 宿題が多すぎて 58
- e 勘違いして 59
- f 急用で授業を中座して 59
 - ア. 教師の発言 59
 - イ. 生徒の発言 59

Chapter 9 60

感謝

- a 一般的な「ありがとう」 60
- b 手伝いに対して 60
 - ア. 手伝いを頼む 60
 - イ. 生徒が手伝いを申し出る 61
 - ウ. 手伝いに感謝する 61
- c 掃除 61
 - ア. 掃除の指示 61
 - イ. 掃除に感謝 62
- d 花などに対して 63
- e プレゼントに対して 63

Chapter 10 64

生徒の発言への対応

- a 誤りの訂正 64
 - ア. 誤りを指摘する 64
 - イ. 小さな[大きな]誤り 64
- b 場面ごとの誤りの訂正 65
 - ア. 音声 65
 - イ. 文法 65
 - ウ. 綴り字・句読法 66
- c 理解の確認 67
- d 任意参加を求める 67
- e 指名して反応を喚起 68
 - ア. 指名 68
 - イ. 反応を促す 68
 - ウ. 助け舟を出して 68
- f 無反応の状況で 69

Chapter 11 70

学習活動への指示

- a グループワーク 70
- b ペアワーク 70
- c 聞くこと 71
- d 読むこと 72
- e 文法 72
- f 語彙 73
- g 子どもたちの活動 74



授業展開

Teaching Procedure

75

Chapter 1 76

ウォームアップ

- ① 挨拶 76
 - a 挨拶 76
 - ア. 普段の挨拶 76
 - イ. 休み明けの挨拶 77
 - b 生徒の反応に続けて 78
 - c 時間 79
 - d 曜日・月日 80

- e 自己紹介 80
 - ア. 教師から 80
 - イ. 生徒に自己紹介を促す 81

② 出欠・遅刻 82

- a 出席の確認 82
- b 欠席[遅刻]の理由 83
 - ア. 欠席の理由 83
 - イ. 遅刻の理由 83
 - ウ. 注意 84
- c 健康状態を気遣う 85

③ 天候	86
a 晴れ	86
b 曇り	86
c 雨	87
d 暖かい	87
e 暑い	88
f 蒸し暑い	88
g 寒い	89
h 霜・氷	90
i 雪	90
④ 前日〔先週〕の話題	91
a 普段の生活	91
ア. 家庭生活	91
イ. 学校生活	91
ウ. 社会生活	92
b 週の始め・休暇明け	93
c 週の終わり頃	94

Chapter 2 復習

① 宿題の提出	95
a 係が集める	95
b 列ごとに集める	96
c 教卓に出す	96
d 授業後に提出	97
② 宿題の発表	97
a 口頭で	97
b 板書で	98
c 隣の人と宿題チェック	98
③ 暗唱文の確認	99
a 口頭英文文として	99
b 対話形式で	99
c 一人で	100
d 意味を考えて	100
e 気持ちを込めて	101
④ 前時のテキスト	102
a 要約	102
b 主人公の行動	102
c 対話の理解	103

Chapter 3 導入

① 重要構文	104
a 意味	104
ア. 日本語で意味をとらえさせる	104
イ. 聞いてその文の内容を考えさせる	104
b 表現形式	105
c 読み方	105
d 言い換え	106
② 演示による導入	106
a 教師の動作	106
b 生徒の動作	107
c 動作の指示	107
d 2つの動作の相違	108
e 役割指定	108
ア. 役割を教師が指定	108
イ. グループ内で生徒同士が役割決定	108
③ 新出語	109
a 発音	109
b 意味	109
ア. 実物を使って	109
イ. 絵を使って	109
ウ. 英語で	109
c フラッシュカードで	110
d 連語	110
e 同音異義語	111
④ 本文・対話	111
a 要点	111
b 質問	111
c 登場人物の相互関係	112
Chapter 4 練習	113
① 語と文	113
a 強勢	113
b イントネーション	113
c 例文	114

d ルックアップ・アンド・セイ	114
e 綴り	115
② 文型練習	116
a 代入	116
b 語順転換	116
c 文転換	116
d 拡大	117
e 短縮	117
③ 動作を伴う練習	117
a TPR	117
b ジャズ・チャンツ	118
④ 練習の指示	119
a 個人、班ごとの切り替え	119
b ノートの取り方・板書の写し方	120
c 図・絵などの説明	120
⑤ 書く作業	120
a プリントの配布	120
b ワークブック	121
c OHP で	121
d 筆記体・活字体	122
e なぐり書き・丁寧に書く	123
f ペン・鉛筆	123
g 色を塗る	123
h 図を描く	124
⑥ 黒板での作業	124
a チョーク[マーカー]の指示	124
b 板書の指示	125
c 下線を引く	125
d 板書を消す	126

Chapter 5 127

教科書本文

① 読み方	127
a 範読	127
b 教師のあとについて読む	127
c CD のあとについて読む	128
d 音読	129
e 黙読	129

f 個人読み	130
ア. みんなに向けて読む場合	130
イ. 生徒が各自で読む場合	130
g ペア読み	131
h 斉読	131
i 読む箇所の指定	132
j イントネーション	132
k 強勢	133
l 発音の訂正	133

② 内容把握 134

a 語[句・文]の意味	134
b 段落の大意	135
ア. 大意把握の指示	135
イ. 大意把握の具体的方法	135
c 指示語の把握	136
d 和訳	136
ア. 和訳の指示	136
イ. 和訳をよくしようとする場合	136
e パラフレーズ	137

③ 文法練習 138

a 書き換え	138
b 和文英訳	138
ア. 和文英訳の指示	138
イ. 誤りを訂正する場合	139
ウ. 別の訳を検討する場合	139
c 穴埋め	139
d 文の転換・結合	140
ア. 文の転換	140
イ. 文の結合	141

④ 言語活動 141

a 聞くこと	141
b 話すこと	142
c 読むこと	143
d 書くこと	143

Chapter 6 144

終了

① 残り時間	144
a 残り時間が短い場合	144
ア. 急いで進む	144

イ、生徒を呼び止めて	145	③ 単語・句の確認	149
b 残り時間が長い場合	145	ア、予習	149
ア、予定外の活動を入れる	145	イ、練習	150
イ、早めに終わる	146	d プリント	150
c 予定の変更	146	e 小テストの予告	151
d 次回の予告	147		
e チャイム	148		
② 宿題の指示	148	③ 終わりの挨拶	151
a 教科書の該当箇所	148	a 一般的な挨拶	151
ア、宿題の指示	148	b 来週まで	152
イ、指示の確認	149	c 次時まで間が空く場合	152
b 暗唱文の指定	149	d 長期休暇の前	152
		e 時間割変更の予告	153
		f 休講の予告	153
		g あと片づけ	154

IV 小中連携のためのヒント 155

Hints for Cooperation between Elementary and Junior High Schools

Chapter 1 157

オーラル・コミュニケーション

a 日常会話	157
ア、授業前にリラックスさせる	157
イ、自分のことを話させる	157
ウ、ペアで活動させる	158
エ、グループで活動させる	159
b リスニング	159
ア、オーディオ機器を使う	159
イ、教師が音読して聞かせる	160
ウ、作業を行わせる	161
c スピーチ・討論	162
ア、意見を求める	162
イ、スピーチをさせる	162
ウ、暗唱させる	163
エ、討論をさせる	164

Chapter 2 165

小中連携を意識した タスク活動例

タスク活動例①	
英語で時間を聞き、英語で答える	165
タスク活動例②	
学校の周辺にある店を英語で言う	169
小タスク活動例①	
英語でクイズに挑戦!スリーヒント・クイズ	170
小タスク活動例②	
英語で時間割を言ってみよう!	172
小中連携を意識した指導のポイント	173

本書の使い方

本書の構成

全4部構成。

第1部 「小学校英語」では、小学校で使われることを想定した教室英語を収録。例文だけでなく、ジェスチャー、指導の際の注意点や Storytelling の具体的な進め方についても解説した。

第2部 「一般的指示」は指導過程のどの段階においても、かなり頻繁に使う教室英語を集めた。

第3部 「授業展開」は授業をする際に必要な教室英語をおおむね指導過程に従って配列した。

第4部 「小中連携のためのヒント」では、教室英語を用いた授業の例として「オーラル・コミュニケーション」「小中連携を意識したタスク活動例」を紹介している。

本書で使われる記号

[] 直前の語句と置き換えられることを示す。意味が変わらない場合と、変わる場合がある。

例：・ Take [Draw] one. (1枚取ってください)

- ・ Face the front [the board]. (前 [黒板のほう] を向きましょう)
- ・ Stand by [in front of] your desk. (机のそばに [前に] 立ちなさい)
- ・ What beautiful handwriting this is [you have]! (この字は [あなたの字は] とてもきれいです)

() カッコ内の語句が省略可能であることを示す。

例：・ (Go) back to your seat. (席に戻りなさい)

- ・ Thank you (very much). (ありがとう)
- ・ Clean up your desk(s). (机を片付けて)

/ 例文、表現を並列する。

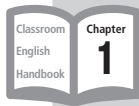
例：・ Hello again, class. / Welcome back, everyone! (皆さん、またよろしく)

- ・ Good morning, class [everybody / everyone / boys and girls / students]. (皆さん、おはようございます)
- ・ Work in pairs [threes / fours]. (2人で [3人で、4人で] やりなさい)

⇒ 参照ページを示す。

タイトルは、その例文が使われる状況を示している。

ダウンロード音声のフォルダ番号と、該当の音声は何番目のトラックに入っているかを示している。



移動

Movement

a 席の移動

Changing seats

(TRACK 02 01 **)

1. 座りなさい。
2. 早く座って。
3. 自分の席に戻って。
4. 立ち上がって動き回ринаさい。
5. 自由に動き回ってもいいですよ。
6. 質問に答えられる人を見つけなさい。
7. 隣の人と対面しなさい。
8. 聞きたいことを誰に聞いてもいいよ。
9. よし、班ごとに作業。
10. 好きなように3人の班になつて。

- Sit down.
Take your seats quickly.
Go (back) to your seat.
Stand up and move around.
You are free to move around.
Find someone who can answer the questions.
Stand face to face with your neighbor [partner].
You may ask anyone, anything you like.
OK, let's make [get into] groups.
Get into groups of three as you like.

英語の例文と英語タイトルの音声を収録。例文の切り替わりがわかりやすいよう、男性の声と女性の声が交互に吹き込まれている。

生徒の応答 Student Response

- 席を離れていい？
今日の席はいつもと同じ？
席替えしてほしい。

- Can we leave our seats now?
Is today's seating as usual?
We want a new seating order.

日本語（左）と英語（右）を一目で対照できる。

「生徒の応答」「教師と生徒のやりとり」では、そのセクションに関連する生徒の発話の例を紹介した。生徒が英語を発話する際の参考として教えてもよいだろう。

音声のダウンロード方法

本書の例文の英語音声は、研究社のホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）から、無料でダウンロードいただけます（MP3 データ）。以下の手順でダウンロードしてください。

- 1) 研究社ホームページのトップページで「音声ダウンロード」をクリックして「音声データダウンロード書籍一覧」のページに移動してください。
- 2) 移動したページの「教室英語ハンドブック」の紹介欄に「ダウンロード」ボタンがあります。クリックしていただくと、ファイルのダウンロードが始まります。
- 3) ダウンロード完了後、解凍してお使いください。本書の TRACK 番号のアイコンの表示にしたがって、該当するフォルダ・番号の MP3 音声をお使いください。

研究社のホームページ

<http://www.kenkyusha.co.jp/>

ダウンロードアイコンの見方



ダウンロード音声のフォルダー一覧

- フォルダ **1** I 小学校英語
- フォルダ **2** II 一般的指示
- フォルダ **3** III 授業展開 Chapter1 ~ 3
- フォルダ **4** III 授業展開 Chapter4 ~ 6
- フォルダ **5** IV 小中連携のためのヒント
- フォルダ **6** タイトル、ナレーター情報

